

楽しく学べる、

お金の歴史と人々の暮らし。

ビジュアル

日本の お金の歴史

全3巻

〔著者〕 50音順

井上正夫

松山大学経済学部准教授

岩橋 勝

松山大学名誉教授

草野正裕

甲南大学名誉教授



ゆまに 書房 YUMANI SHOBOU

楽しく学ぼう！ 日本のお金の歴史と人々の暮らし。

私たちが毎日何気なく使用しているお金は、日本ではいつごろ生まれ、どのように使われていたのでしょうか。今から1400年ぐらい前にお金は使われていました。それから現代の「円」にいたるまでの間に、様々なお金が現れたり、消えたりと大変複雑な歴史をたどってきました。本書では、古代から現代にいたるお金の歴史を通して人々の暮らしや経済の仕組みを豊富な写真や図版とともに、解説していきます。

目次から

※一部予定を含みます。

●飛鳥時代～戦国時代

「今から1400年くらい前にお金は使われていました。そのころのお金として使われていたのは、布と銀でした。その布は、麻などの植物からとった糸で編んだ布です。布の大きさは、「ヒロ」という単位であらわされていて、1ヒロは、幅が75センチ、長さが大人の両手を広げたくらいで、約180センチだったようです。」

- ・昔のお金は、布でできていた
- ・失敗に終わった富本銭
- ・和同開珎の誕生！
- ・人は銅より銀のほうが好き？
- ・10倍の値打ちのある、新しいお金
- ・あるのに使えない銅銭
- ・中国からやってきた銅銭
- ・外国のお金のほうが安心！
- ・二セ金づくりが始まる
- ・二セ金への対策とは
- ・昔へ逆もどりしてしまった！ ほか

●江戸時代

「戦国時代までにおもに流通したお金は銭貨でしたが、江戸時代に入ると金貨、銀貨、銅貨の3種がともに使われるようになります。金貨は4進法で、1両が4歩(分)、1歩が4朱で、4倍で上の位になる数え方をしました。しかし銀貨は受け取りのたびごとにはかりを用意して、その重さを確認して使用していました。」

- ・お金が不可欠な時代がやってきた
- ・「金銀銅」の3つのお金がつくれた理由
- ・いつもはかりが必要な、面倒なお金とは？
- ・世界の3分の1を掘り出した日本の銀
- ・初めての改鑄のねらい
- ・お金は良質なほどよいのか？
- ・やむにやまれぬ金銀悪銭
- ・自然に使われ始めた紙のお金
- ・庶民には便利でも迷惑な藩札
- ・銀でつくられた「金貨」
- ・しだいに消えていった銀貨
- ・一夜で金貨の価値が3倍に
- ・明治政府の未熟な紙幣、太政官札
- ・円が誕生した！ ほか

●明治時代～現代

「明治維新はお金の歴史においても大きな節目になりました。明治新政府は明治4年、通貨は円、銭、厘という単位に統一され、江戸時代の1両を1円とし、1円は100銭、1銭は10厘と定め、江戸時代は4進法だったものが欧米に合わせて10進法が採用されました。ここに円が誕生しました。」

- ・円の誕生
- ・円の裏づけは金と銀
- ・紙幣を発行できる銀行はいくつもあった
- ・松方正義は金銀と交換できない紙幣を整理した
- ・日本銀行券の発行
- ・銀価格が下落して銀を裏づけとする円も下落していた
- ・清から得た賠償金をもとに円の裏づけを金とした
- ・第1次世界大戦後の不況
- ・円の裏づけを金とする体制を離れる
- ・軍事費の増大
- ・日銀にお金を印刷させる一打ち出の小槌
- ・悪性インフレーション
- ・1ドル=360円 レートの設定
- ・円相場はときどきの相場場で変動することに
- ・貨幣の電子化 ほか

ようやくつくられた日本独自のお金

信長・秀吉・家康が、三貨制度をつくる

400年以上も続いた戦国時代をようやく終わらせ、その後二百数十年の長い平和な近世社会をきずいた3人はだれでしょうと聞かれたら、知らない人のほうが少ないでしょうね。その最初の人、織田信長はただ戦乱をおさめるだけでなく、混乱していた銭(銅)貨の使い方についても、不便な状態をスッキリする方向にもってゆきました。

それまで古代の皇朝十二銭や中国から輸入された宋銭、さらに国内外で鑄造された模造銭や私鑄銭などが取りまぜて使われており、

1枚あたりの価値が違っていただけでなく、同じ種類の銭貨でも、すり切れて薄くなったものと形が整ったものとが、同じにあつかわれなくなっていました。現代にたとえていうと、ちょうど、アメリカのドル札や中国の人民元札にくわえて日本の二セ札もはいろこみ、さらに古くなってよごれたため千円札が900円か800円でしか通用しなくなっているような状態です。室町幕府や各地の領主が撰銭令をたびたび出して、銭貨が混乱なく流通するようにつとめたことは前の巻で説明したとお

表1 ●三貨制度成立への動き

年	和暦	出来事
1569	永祿12	織田信長、撰銭令を出し、高額取引では金銀を使わせる(三貨使用)
1573	天正元	信長、室町幕府を倒し、天下人となる
1582	天正10	本能寺の変のあと信長に代わって、豊臣秀吉天下人となる
1588	天正16	秀吉、天正大判をつくらせる。このころ御公用銀もつくらせる
1596頃	慶長元	徳川家康、武蔵墨書小判、額一分金などをつくる
1598	慶長3	豊臣秀吉死去。2年後、関ヶ原の戦い。家康天下人となる
1601	慶長6	家康、大判・小判・一分金、丁銀・豆板銀をつくる
1603	慶長8	家康、江戸幕府を開く(銭貨は永楽通宝やその他のビタ銭を使用)
1609	慶長14	幕府、金銀銭貨の交換比率を公定。三貨制度の基礎ができる
1636	寛永13	寛永通宝発行
1670頃	寛文期	寛永通宝大量鑄造で、全国にほぼ行き渡る。地方により使われていた領国銀貨も慶長丁銀に代わる(三貨制度の完成)

表や年表で要点をまとめ、理解を助けます。

様々な貨幣を、ビジュアルに紹介します。

見やすい章立てで、簡潔に解説。見開きで見やすいレイアウト。難しい漢字にはルビを付けてあります。

本文見本 50%に縮小



●天正大判
秀吉がはじめて発行。表面に鑄造年と製作者名が墨書きされている。

●博多御公用銀
朝鮮出兵のとき使用されたといわれる。

●甲州金
武田氏が16世紀後半に鑄造。「孝分金」は江戸期金貨の原型となったといわれる。甲州で19世紀初めまで流通。

●天正越座金
越後上杉氏が天正期に出した金貨。

お金が不可欠な時代がやってきた

ところで、江戸時代は「米づかい社会」といわれ、銭貨や金銀のようなお金をあまり必要としない経済を幕府はめざしました。徳川家康は全国を支配するようになる前、江戸のまわり8カ国の大名であった時代から三貨制度です。そのため、農民が米づくりや雑仕事以外の、商業やモノづくりをしないよう、きびしく取り締まったのです。

江戸時代はもと、いつかおこってよいような準備を国内にさせていたもので、大名や武士も戦いのときに一番大切な武器と米を用意して使っていました。ですので大名や武士の収入も米が基準となっていたのです。しかし、17世紀にはいつか平和が続くようになって、武士たちの生活に変化が出てきます。戦いよりも、ふつうの生活を豊かにするための物資がとめられるようになり、その多くを農民たちがつくるようになったのです。多くの農民も農作業のひまな時間に、売れるものをつくり、売りに出したりして、少しずつお金にふれるようになっていきました。米は古代からお金としても使われていましたし、戦国時代にはとくに貴重な物資でもあ



●米はお金の代わりになっていた

りました。家康が米を基本とする米づかいの社会を打ちたてたのは意味のあったことですが、米だけでは貨幣としての限界があり、どうしても金属貨幣である金銀銅でつくられたお金が必要となるようになります。

●貨幣経済の発達と貨幣の種類

貨幣	原始	古代	中世	近世	近代
自然経済	自然経済 (一部、貨幣経済)	自然経済・貨幣経済	貨幣経済 (地方の一部は自然経済)	貨幣経済	貨幣経済・信用経済
(物々交換)	物品貨幣 (都市の一部は金属貨幣)	物品貨幣・金属貨幣	金属貨幣 (地方の一部は物品貨幣 または信用貨幣)	金属貨幣・信用貨幣	金属貨幣・信用貨幣
生活物資	生活物資(米・布)・銭貨	生活物資(米・布)・銭貨	金銀銅貨・米・手形	金銀銅貨・紙幣・手形	



●武蔵墨書小判
天正大判と同様に小判表面に墨書き。

●額一分金
のちの慶長一分金とく

ビジュアル

[著] 井上正夫 / 岩橋 勝 / 草野正裕 (50音順)

日本のお金の歴史 全3巻

●揃定価：本体7,500円+税 (各本体2,500円)

ISBN978-4-8433-4793-5 C0633

各巻の構成と配本予定

- 第1回配本 ● **江戸時代** [著] 岩橋 勝 ISBN978-4-8433-4795-9 2015年10月刊行予定
- 第2回配本 ● **飛鳥時代～戦国時代** [著] 井上正夫 ISBN978-4-8433-4794-2 2015年11月刊行予定
- 第3回配本 ● **明治時代～現代** [著] 草野正裕 ISBN978-4-8433-4796-6 2015年12月刊行予定

本書の特色

- 日本のさまざまなお金について、オールカラーで豊富な図版と写真を満載。
- お金の歴史が大きく変わった3つの時代に分けて、それぞれの時代の特性を分かりやすく解説。
- お金を通して、古代から現在にいたる日本経済史を学ぶことができる。
- 硬貨や紙幣が時代の変化と共に、どのように変わってきたのかをビジュアルに理解できる。
- ニセ金づくり、悪鋳など、お金にまつわる面白エピソードも紹介。



仕様：●B5判上製／カバー装 ●オールカラー ●平均約46頁

はじめまして！ 10歳からの**経済学**

[文] 泉美智子 どうしてお金でものが買えるの？ 株式会社の仕組みってどうなっているの……？ 難しい用語は使わず、「もしも～がなかったら」というシミュレーション物語を通して楽しみながら経済を学べるこれまでにないあたらしい絵本です。

■第Ⅰ期 全3巻……………各巻定価：本体2,800円+税

- ①もしもお金がなかったら [絵] サトウナオミ
- ②もしも銀行がなかったら [絵] 山下正人
- ③もしも会社がもうけばかり考えたら [絵] 新谷紅葉

■第Ⅱ期 全3巻……………各巻定価：本体2,800円+税

- ④もしも国営会社が民営化されたら [絵] 石川ともこ
- ⑤もしも会社をまるごと買収できたら [絵] 松島ひろし
- ⑥もしも会社が地球環境を考えなかったら [絵] サトウナオミ

ゆまに書房 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6 TEL.03 (5296) 0491 FAX.03 (5296) 0493 <http://www.yumani.co.jp/>

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日		※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。		
ご注文書	ビジュアル 日本のお金の歴史 全3巻		取扱店	
	揃定価：本体7,500円+税 ISBN978-4-8433-4793-5 C0633			セット
	江戸時代	本体2,500円 ISBN978-4-8433-4795-9		部
	飛鳥時代～戦国時代	本体2,500円 ISBN978-4-8433-4794-2		部
	明治時代～現代	本体2,500円 ISBN978-4-8433-4796-6	部	
お名前				
ご住所		TEL ()		